2026 年 11 月 9 日
独立行政法人国際協力機構（JICA）

フィリピン上院が JICA への感謝決議を採択

―50 年以上の協力を評価、日比国交正常化 70 周年に田中理事長へ感謝状―

独立行政法人国際協力機構（JICA）の田中明彦理事長は、2026 年 11 月 6 日、訪日中のフィリピン共和国上院議員団と都内で会談し、同国上院が採択した JICA への感謝決議（上院決議第 673 号）に基づく感謝状を受け取りました。同決議は、50 年以上にわたる JICA の対フィリピン協力を評価するものです。また、フィリピン上院が開発協力機関に対して採択した初めての感謝決議であり、複数の上院議員による共同発議のもと、全会一致で可決されました。



キャプション：上院議員団（右から 5 番目：シャーウィン・ガチャリアン上院議長）から田中 JICA 理事長（左から 4 番目）に感謝状を授与

本決議を共同発議したフアン・ミゲル・ズビリ上院議員は「特に、ミンダナオに対する日本の継続的な支援に深く感謝しています。（マニラ首都圏で JICA 協力中の）2 つの主要鉄道プロジェクトが前進し、フィリピンの通勤・通学客が早く利用できるようになることを期待しています。」と感謝を述べました。田中明彦 JICA 理事長は「両国は相互理解と信頼を積み重ね、今日の強固な友好関係と協力関係を築いてきました。これからもフィリピンの皆様と手を携え、持続可能で包摂的な成

長の実現に向けて、共に歩んで参りたい」と応じました。意見交換では、鉄道、農業、ミンダナオ支援等の分野での今後の協力の方向性についても議論が交わされました。
本年は日本・フィリピン国交正常化 70 周年の節目に当たり、今回の決議は、長年にわたる両国の友好と協力への評価と、今後の更なる関係発展への期待を示すものとなりました。

【コメント（抜粋）】

フアン・ミゲル・ズビリ上院議員：「フィリピンの開発努力に対する JICA の揺るぎない支援に対し、田中明彦理事長に心より深く感謝申し上げます。JICA はフィリピンにとって最大の政府開発援助（ODA）供与機関です。

我々は、大規模なインフラ事業、デジタルの接続性、雇用の創出、国土の強靭化で、JICA による支援がもたらした大きな成果を目の当たりにしてきました。特に、日本のミンダナオに対する継続的な支援にも深く感謝しています。ムスリム・ミンダナオ・バンサモロ自治区における平和の促進と、更なる開発を可能にするための JICA の厚意に謝意を表します。

JICA の継続的な協力で、2 つの主要鉄道プロジェクトが前進することを期待しています。9 月にニノイ・アキノ国際空港第 3 ターミナル駅の起工式が行われたマニラ首都圏地下鉄は、首都圏と空港を直結する鉄道アクセスを提供することになります。南北通勤鉄道は各地域を結び、これらは公共交通システムの大きな改善として多くの国民に恩恵をもたらすでしょう。

安全保障、繁栄、そして平和という大いなる目標に向け、今後長年にわたり私たちの交流が継続し、パートナーシップが強化されることを希求しています。」



キャプション：フアン・ミゲル・ズビリ上院議員

2026 年 11 月 9 日
独立行政法人国際協力機構（JICA）

田中明彦 JICA 理事長：「この度は感謝決議の全会一致での採択に対し、心より御礼を申し上げます。日本とフィリピンの国交正常化 70 周年という記念すべき節目に、このような評価を頂戴し大変光栄に思っています。

JICA は半世紀以上にわたり、フィリピンの鉄道や道路などのインフラ整備、防災、人材育成、農業、保健、ミンダナオの平和と発展などの分野で協力を進めてきました。これは単なる開発協力の歴史ではなく、長年にわたる対話と協力を通じ、共通の課題に共に取り組む、信頼あるパートナーシップへと発展させるための歩みでした。今回の表彰は JICA のみならず、両国の発展と友好のために尽力された全ての関係者に向けられたものと受け止めています。

日本とフィリピンの関係は、JICA のビジョンである『信頼で世界をつなぐ』を体現する関係です。これからもフィリピンの皆様と手を携え、持続可能で包摂的な成長の実現に向け、共に歩んで参りたいと考えています。」



キャプション：田中明彦 JICA 理事長